

SRC 自主調査の調査結果について

在宅における看取りの調査研究

 1. はじめに

- ✓ 令和4年簡易生命表の概況によると、平均寿命は男性81.05歳、女性87.09歳
- ✓ 一方で、年間の死亡数は156万9,050人（令和4年の人口動態統計）
→寿命の延伸&高齢化の進行により日本は「多死社会」
- ✓ 「多死社会」が進行する一方で医療・介護リソースは逼迫
→「自分の家で死を迎える」ケース（在宅での看取り）の増加が予想
- ✓ 看取りは「終末期にふさわしい最善の医療、看護、介護等を行う一連の過程を指すもの」である一方「最期の立ち会い」という誤認も存在
→上記は感覚的なものであり、「看取り」に対するイメージを定量的に調査したものは管見の限り見当たらない

⇒RQ：看取りに対して正しい認識を持っているのか。
また、看取りについて認識が異なる要因は何か。

 2. 調査設計

「看取り」という言葉の概念は地域や個人属性等、様々な要因に応じてとらえ方が異なり、今後高齢者福祉において重要となる「看取り」について、国民がどう考え、どのようにしていきたいかを把握するために実施

調査方法	WEB調査
調査対象	全国47都道府県のモニター3,000件
調査期間	2024年11月1日～11月11日

 3. 調査項目

1 職業	9 父親との同居状況
2 居住している都道府県・市区町村	10 母親との同居状況
3 在籍した学校	11 父親の看取り方
4 昨年(2023年1月～12月)の世帯全体の年収	12 母親の看取り方
5 世帯構成	13 配偶者の有無
6 居住形態	14 配偶者の看取り方
7 看取りという言葉のイメージ	15 性別(モニター情報)
8 人生の最期を迎えたい場所	16 年代(モニター情報)

4. 分析の方法と変数の定義

◎分析の主眼

分析においては、「看取り」について正しい認識を持っているかどうかをA B質問を用いて、明らかにする。また、誤った認識を規定する要因（すなわちどのような人が誤った認識を持っているのか）を明らかにするために、看取りに関するイメージを従属変数とし、デモグラフィック要因を独立変数とした分析を行う。なお、以下、集計においては、ウェイトバック処理を行っている。

◎従属変数

従属変数は「あなたは看取りという言葉について、以下のAとBの考え方のどちらに近いイメージを抱きますか。」における以下2つの質問を用いる。

A：死の瞬間に立ち会うこと
B：死の瞬間まで介護等の日常生活の世話をすること

A：食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア
B：点滴や酸素吸入といった医療を中心としたケア

どちらもAと回答した場合を1，Bと回答した場合を0としたダミー変数とするため、分析においては2項ロジスティック回帰分析を用いる。

◎独立変数

- ・性別
モニター登録情報の「男性」を1、「女性」を0としたダミー変数を投入
- ・年齢
モニター登録情報をそのまま連続変数として投入
- ・有職
Q1の「勤め人（正社員）」「勤め人（派遣・契約・パートなど）」「自営業・自由業」を1、「無職」「学生」「その他」を0、「答えたくない」を欠損値として投入
- ・教育程度
Q3の「答えたくない」を欠損値とし、連続変数として投入
- ・収入
Q4の「答えたくない」を欠損値とし、連続変数として投入
- ・一人暮らし、夫婦のみ世帯
Q5の「単身」を1、その他を0としたダミー変数、「夫婦のみ」を1、その他を0としたダミー変数を投入
- ・持ち家
Q6の「持ち家」を1、その他を0としたダミー変数を投入
- ・人口密度
Q2の市区町村から、人口密度をマッチングし、連続変数として投入

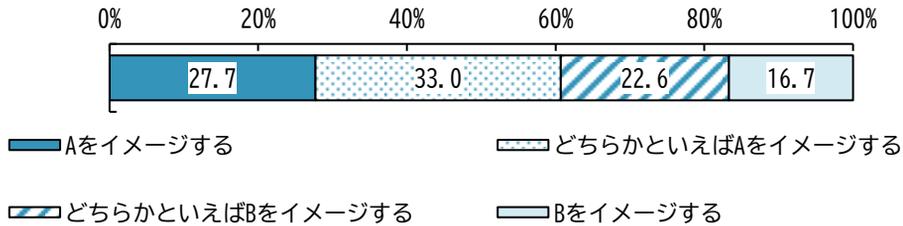
5. 従属変数

◎モデル1

◎あなたは看取りという言葉について、以下のAとBの考え方のどちらに近いイメージを抱きますか。

A：死の瞬間に立ち会うこと

B：死の瞬間まで介護等の日常生活の世話をすること



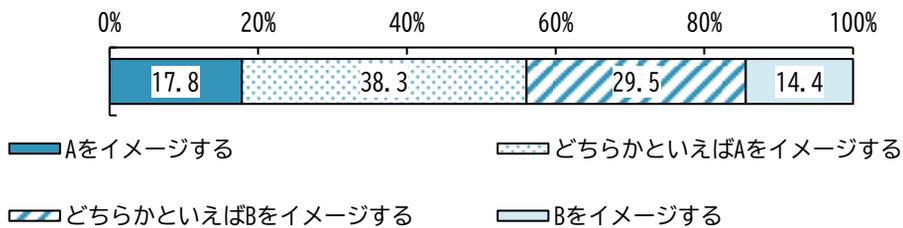
→ 「A：死の瞬間に立ち会うこと」をイメージするが60.7%、
「B：死の瞬間まで介護等の日常生活の世話をすること」をイメージするが39.3%
⇒ 死の瞬間に立ち会うことをイメージする割合が多い

◎モデル2

◎あなたは看取りという言葉について、以下のAとBの考え方のどちらに近いイメージを抱きますか。

A：食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア

B：点滴や酸素吸入といった医療を中心としたケア



→ 「A：食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア」をイメージするが56.1%、
「B：点滴や酸素吸入といった医療を中心としたケア」をイメージするが43.9%
⇒ 食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケアというイメージがやや優勢

6. 分析結果

- ・モデル1：「死の瞬間に立ち会うこと」を1、「死の瞬間まで介護等の日常生活の世話をすること」を0
- ・モデル2：「食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア」を1、「点滴や酸素吸入といった医療を中心としたケア」を0

	モデル1		モデル2	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差
性別	0.474 ***	0.097	-0.016	0.094
年齢	-0.018 ***	0.004	0.000	0.004
有職	0.170	0.111	-0.070	0.110
教育程度	-0.034	0.034	-0.047	0.033
収入	0.003	0.015	-0.026 *	0.015
一人暮らし	-0.067	0.124	0.138	0.120
夫婦のみ世帯	0.021	0.108	0.247 **	0.105
持ち家	-0.067	0.109	-0.094	0.106
人口密度	0.092 ***	0.029	-0.023	0.029
定数項	0.452	0.332	0.749	0.324
n	2,301		2,232	
擬似決定係数	0.0198		0.0071	

*は10%、**は5%、***は1%水準で統計的有意を示す

◎モデル1

- ・性別が正の方向に1%水準で統計的に有意
- ・年齢が負の方向に1%水準で統計的に有意
- ・人口密度が正の方向に1%水準で統計的に有意

◎モデル2

- ・収入が負の方向に10%水準で統計的に有意
- ・夫婦のみ世帯が正の方向に5%水準で統計的に有意

- ✓ 男性ほど看取りを「死の瞬間に立ち会うこと」と考える
- ✓ 年齢が低いほど看取りを「死の瞬間に立ち会うこと」と考える
- ✓ 人口密度が高いほど看取りを「死の瞬間に立ち会うこと」と考える
- ✓ 収入が低いほど看取りを「食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア」と考える
- ✓ 夫婦のみ世帯ほど看取りを「食事や入浴、排せつなどの日々の生活ケア」と考える

7. 結論

◎結論

- ✓ 男性や若年層、人口密度が高い地域では、「看取り」に対する正しい認識を持っていない
- ✓ 収入や家族形態によって、看取りに対する「医療的ケア」の側面の認知が異なる

■ サベイリサーチセンター 会社概要

● 会社名	株式会社サベイリサーチセンター
● 所在地	東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
● 設立	1975(昭和50)年2月
● 資本金	6,000万円
● 年商	137億円(2024年度)
● 代表者	代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
● 社員数	社員:358名 契約スタッフ:473名(2025年2月1日現在)
● 事業所	東京(本社)、札幌、盛岡、仙台、北陸、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
● 主要事業	世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
● 所属団体	公益財団法人 日本世論調査協会 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA) 日本災害情報学会 一般社団法人 交通工学研究会 他
● その他	ISO9001認証取得(2000年6月) プライバシーマーク付与認定(2000年12月) ISO20252認証取得(2010年10月) ISO27001認証取得(2015年11月)※ ※認証区分及び認証範囲: ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供 ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社サベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当:品質部 松下 正人 E-mail:src_support@surece.co.jp
TEL:03-5990-9298
- 調査担当:静岡事務所 田原 歩 E-mail: tahara_a@surece.co.jp
TEL:054-251-3661 FAX:054-252-6544
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として
「株式会社サベイリサーチセンター(東京都)」を必ず明記して利用してください。
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます。
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです。